平成１９年度 川崎市産業振興会館の管理運営に対する評価について

１　指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人川崎市産業振興財団 （川崎市幸区堀川町６６－２０　川崎市産業振興会館６Ｆ）
(2) 指定期間	平成１８年４月１日～平成２１年３月３１日
(3) 業務の範囲	・企業間の情報交流の促進並びに産業情報の収集及び提供に関すること。 ・情報の高度化に対応する企業の技術振興及び人材育成に関すること。 ・市内企業の製品の展示及び販路開拓の相談に関すること。 ・施設及び設備（以下「施設等」という。）を利用に供すること。 ・産業経済の調査研究に関すること。 ・その他設置目的を達成するために必要な事業を行うこと。

２　事業執行（管理運営）に対する評価

評価項目	平成１９年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況 ①施設の管理に関する業務		
ア　利用状況	多目的ホール：６６.３％(目標値 71.0%) 企画展示場　：５６.６％(目標値 54.3%) 研修室　　　：７２.８％(目標値 61.3%) 会議室　　　：５４.３％(目標値 50.7%) 会館合計の利用率は、５９．６％と目標値５５％を上回ったが、多目的ホールについては、目標値７１．０％を下回った。 ・利用率のさらなる向上のため、ホームページやパンフレットの見直し、対象を定めた集中的な広報など、様々な方策を実施した。	・多目的ホールの利用率が当初の目標値を下回ってはいるが、会館全体では、利用率の目標値を上回っており一定の評価はできる。 ・多目的ホールの利用率向上を図るとともに、会館全体の利用率のさらなる向上を図ること。
イ　サービスの向上	・施設等管理業務におけるソフト面での充実のため、利用者アンケートの実施と合わせ、会館利用者の利便性向上に向け、会館サービス向上委員会を開催した。 ・会館受付業務向上のため、接遇研修を実施した。 ・「ご意見箱」を設置し、利用者のニーズの把握に努めるとともに、新たに、コミュニケーションボードを常時設置し、投函された内容の対応やお知らせを掲示するようにした。 ・平成１９年度、新たに、福祉サービス	・受付担当職員に対する接遇研修を行うなど、会館サービス向上の取組みは評価できる。 ・今後も利用者の声を積極的に収集し、会館サービスの向上に努めること。

評価項目	平成１９年度管理運営の状況	評価及び指導
	コーナーを設置し、来館するお年寄りや体の不自由な方に対するサービス向上に努めた。	
ウ　施設の維持・管理	・会館の安全・安心な維持・管理を目的に、短期修繕基本計画案を作成した。 ・適切な修繕を行い、各種保守点検、清掃業務等を専門業者へ委託し、安全、安心な施設管理に努めた。	・適正に施設の管理が行われており、今後も安全・安心な施設管理を行うこと。
エ　安全・安心に関する取組み	・一定期間継続して消防法令を遵守していると認められたものに交付される「防火優良認定」をうけるとともに、川崎市独自認定「消防適合認定」を第 1 号として受けた。 ・AED を導入し、講習会を開催した。 ・危機管理マニュアルを整備し、配布した。	・今後も安全・安心な施設管理を行うこと。
②産業振興に関する業務		
ア 企業間の情報交流の促進並びに産業情報の収集及び提供に関する業務	・ 「産業情報かわさき」を発行し、市内中小企業に対して、産業情報の提供を行った。 ・ 産業情報コーナーを開設し、来館者に対して、市内中小企業の情報や産業情報等の提供を行った。 ・ 「産業バンクかわさき」をインターネット上に開設し、川崎市や産業振興財団の行っている事業の紹介など、各種情報の提供を行った。 ・ １９年度の新たな取組みとしては、情報誌のＰＤＦ化を図り、情報提供の幅を広げたことや館内の展示スペースの工夫などが挙げられる。	・情報提供のための各種事業を行い、市内中小企業者への情報提供という観点から、情報提供の方法について工夫を行っており、評価することが出来る。 ・今後も引き続き、中小企業へ提供する産業情報の充実を図るとともに、広く情報が行き渡るよう工夫すること。
イ 情報の高度化に対応する企業の技術振興及び人材育成に関する業務	・ 「新分野・新技術支援研究会」として、４つの研究会を開催することで、会員企業の技術力、販路拡大等の支援を行った。（会員数３１社から３７社に増加） ・ パソコン研修や品質・環境管理支援研修など、中小企業の人材育成に資する各種講座を開催した。（パソコン研修受講者３３２名から４１０名に	・研究会については、会員企業を対象に財団事業と連携して技術・経営面でのアドバイスやビジネス・マッチングを行うなど、積極的な取組みを行うことにより、会員数を３１社から３７社に増やすな

評価項目	平成１９年度管理運営の状況	評価及び指導
	増加、品質・環境管理支援研修受講者２１５名から２２３名に増加） ・ 次世代産業を担う技術者の育成、技術レベルの向上を図ることを目的として、「第１４回かわさきロボット競技大会」等を開催した。	ど、評価できる。 ・パソコン研修等も、昼夜に分けて講座を開催するなどの工夫を行い、パソコン研修受講者は３３２名から４１０名に増加、品質・環境管理支援研修受講者は２１５名から２２３名に増加したことについて、評価できる。 ・かわさきロボット競技大会については、「ものづくり」を広く市民に普及させるとともに、ロボット技術を通じて人材育成を図るなどの取組みを進め、参加チームを２３９チームから２６０チームに増やすなど、評価できる。
ウ　市内企業の製品の展示及び販路開拓の相談に関する業務	・ 市内企業の企業情報データや受発注情報を掲載した「かわさきデータベース」を運営することで、登録企業の販路拡大の支援を行った。 ・ 平成１９年度、新たに、データベース登録企業について財団サポートセンター各専門家とともに訪問調査を実施し、登録項目である「自社ＰＲ」、「得意分野」についてヒアリングを行い、データベースの充実に努めた。課題については、その場でアドバイス等も行った。 ・ 市内企業製品を１階ロビーにて展示した。また、研修室でのモニタリングを継続実施した。	・「かわさきデータベース」は、産業振興財団事業と連携し、中小企業支援のツールとして活用するとともに、企業の情報交流の場として一層の充実を図ったことが評価される。 ・市内企業製品の展示については、展示製品の選定、展示場所、展示方法について一層の工夫をすること。
エ　産業経済の調査研究に関する業務	・ 川崎市内中堅中小企業経営実態調査など各種調査を実施し、市内企業の実態を明らかにし、産業政策立案に資する基礎資料としての報告書の作成を行った。	・市内中小企業の経営実態を把握するための調査を実施し、報告書の作成が行われているが、企業を取り巻く環

評価項目	平成１９年度管理運営の状況	評価及び指導
		境変化などについて今後も調査研究を行っていくとともに、アンケートの回収率を高める工夫をすること。
(2) 収支状況	収入金額 238,789,732 円 (1)指定管理委託料 174,584,000 円 (2)利用料金収入 39,094,740 円 (3)事業収入 15,937,000 円 (4)その他収入 5,727,405 円 (5)前期繰越金 3,446,587 円 支出金額 230,003,113 円 (1)事業費 58,504,925 円 (2)施設管理費 168,538,664 円 (3)その他支出 2,959,524 円 次期繰越収支差額 8,786,619円	・利用率が目標値を上回ったことにより、利用料金収入が増えた。 ・また、パソコン研修開催数の増加が事業収入の増につながった。 ・利用率等の向上を図るとともに、サービス水準を維持しつつ、経費削減に努めること。
(3) その他 ① 利用者からの意見･要望等への対応	・ サービス向上委員会で、アンケートによる要望その他５３件について検討、対応した。 （例）入口の喫煙所を改善してほしい。 → 移動を検討。 （例）移動スクリーンが古く重い。 → 購入を検討。	・積極的に利用者からの意見、要望を吸い上げ、会館サービスの向上に反映させようとする姿勢は評価できる。
② 個人情報の保護	・ 業務の性質上、多くの個人情報を扱っているため、（財）川崎市産業振興財団個人情報保護に関する規程等に基づき、統括管理責任者を中心とした管理体制のもと、定期的な教育訓練、個人情報の適切な廃棄及び消去など、引き続き個人情報の円滑な管理に努めた。	・個人情報の保護については、その重要性を十分認識し、対応しているため、評価できる。

３　事業執行（管理運営）に対する全体的な評価

- 川崎市産業振興会館は、企業間における情報交流、企業の技術開発、販路開拓事業の推進等を図り、本市産業の発展と地域経済の活性化に寄与することを目的として設置され、当該目的を達成するために行っている各種事業については、おおむね評価できる。
- また、会館の利用率は当初目標を上回って推移しており、評価できる。
- 市民の利用者からの施設管理に関する意見については、適切に対処している。
- 全体としては、良好な施設の管理運営が行われており、評価できる。

４　平成２０年度の事業執行（管理運営）に対する指導事項等

- 引き続き、会館利用者の意見、要望を積極的に吸い上げ、適切に対応するようにする。
- 会館利用率をさらに向上させる。
- 引き続き、市内企業の育成を図れるような各種事業を行うこと。
- 安全・安心な施設の維持・管理を引き続き行うこと。